

教科(科目)	芸術(音楽Ⅰ)	単位数	2単位	学年(コース)	2学年
使用教科書	教育出版 高校音楽Ⅰ改訂版 Music View				
副教材等					

1 学習目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばし、音楽文化についての理解を深める。

2 指導の重点

積極的な態度で音楽に楽しむ姿勢を身につける。
鑑賞やアンサンブル発表を通して美しい音楽を聴く能力を育てる。

3 学習計画

月	題材名・単元名	主要学習領域	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4	・オリエンテーション —音楽の授業を楽しく学ぶために— ・豊かな歌声をめざして —ア・カペラにチャレンジ—	歌唱	歌う楽しみを味わい、音楽学習への意欲を養う 豊かな響きのある歌声の基礎となる技能を身に付け、ア・カペラの合唱でアンサンブル活動を楽しむ	6	実技テスト (歌唱)
5	・音楽の要素と働き 1 —リズムと音階の働きが生み出す魅力— ・言葉と音楽 1 —日本語の歌と英語の歌—	創作 歌唱	音楽を形づくる要素の種類や働きを知る 歌詞の内容や楽曲の背景、言葉の特性を感じながら表情豊かに歌う	8	記録ノート 実技テスト (歌唱)
6	・言葉と音楽 2 —イタリア語とドイツ語の歌曲に挑戦— 紹介文にチャレンジ —音楽のよさを言葉で伝えてみよう—	歌唱 鑑賞	リズムの働きを知覚感受し、声や身体による表現活動を行う 言葉の特性を感じながら表情豊かに歌う 感じたことを文章や言葉で伝える工夫をする	8	実技テスト(歌唱、身体表現) 記録ノート
7	・音楽の要素と働き 2 —テクスチャが織りなす音の文様—	創作	テクスチャの働きを理解し、その変化がもたらす違いを感受する。また、和音や和声の働きを理解してイメージをもって音楽をつくる。	6	記録ノート
9	・音楽の秋、芸術の秋に向けて ・アンサンブルの楽しみ	歌唱 器楽	季節に合わせた歌を二部合唱で歌う ギターやリコーダーの技術を習得しアンサンブル活動を楽しむ	8	実技テスト (歌唱、演奏)
10	・言葉と音楽 3 —フランス語の歌曲に挑戦— ・言葉と音楽 4 (まとめ) —二つのレクイエム—	歌唱 鑑賞	フランス語の発音や言葉の特性を学びながら表情豊かに歌う ラテン語のレクイエムについて学習し、言葉の魅力を考える	8	実技テスト (歌唱) 記録ノート
11	・物語と音楽のかかわり 1 —映像における音楽の効果— ・物語と音楽のかかわり 2 —和と洋の比較— ・絵画と音楽のかかわり	歌唱 鑑賞	音楽と他の文化とのかかわりを考え、映像作品や舞台芸術、物語における音楽の効果を感じ取る	8	実技テスト(歌唱) 記録ノート

12	音楽の要素と働き3 —音素材を選んで音楽をつくらう— ・世界の音楽1 —和楽器の音と世界の楽器の音—	創作 器楽 鑑賞	形式や構成を考えながら音素材を選んで音楽をつくる。 音楽と絵画、諸芸術のかかわりを考える 和洋音楽文化を比較理解し和楽器を演奏する	6	実技テスト (演奏) 記録ノート
1	・世界の音楽2 —諸民族の声の音楽と日本の声の音楽— ・世界の音楽3 —ポピュラー音楽のルーツ—	歌唱 鑑賞	諸民族の音楽の多様性を比較し、音楽文化の共通点相違点を理解する 音楽の歴史を学び生活や社会とのかかわりを考える	6	実技テスト (歌唱) 記録ノート
2	アンサンブル研究 各教材	器楽	互いに協力し、よりよいアンサンブルを楽しむ	4	実技テスト
3	アンサンブル発表会 各教材	器楽	互いの演奏発表を聴き合い、表現の方法を研究する	2	実技テスト 記録ノート

計 70 時間 (50 分授業)

4 課題・提出物等

授業記録ノート・アンサンブル器楽記録練習ノート

5 評価規準と評価方法

評価は次の観点から行います。

音楽への 関心・意欲・態度	音楽表現の創意工夫	音楽表現の技能	鑑賞の能力
音楽活動の喜びを味わい、音楽や音楽文化に関心をもち、歌唱、器楽、創作、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとしている。	音楽の諸要素を知覚しながら、歌唱、器楽、創作の音楽表現を工夫し、表現意図を持っている。	創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付け、創造的に表している。	音楽の諸要素を知覚し、その働きを感受しながら、解釈したり価値を考えたりして、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わって聴いている。

以上の点を踏まえ、以下のことを総合して判断します。

- ・授業への取り組み（授業態度・学習活動への参加状況など）
- ・提出物の提出状況や内容
- ・歌唱・楽器の実技テスト

6 担当者からの一言

- ・楽曲や音楽史の基礎知識を身につけ、生涯を通じて音楽を楽しんでいける土台を作りましょう。
- ・ギターやリコーダー等の基本奏法を身につけ楽器に親しみましょう。
- ・世界の名曲やミュージカルなどの鑑賞を通して音楽の素晴らしさを知りましょう。

(担当：俵山 万里)